

■ 若手研究者奨励賞受賞

第25回日本心臓核医学会総会・学術大会
「若手研究者奨励賞最優秀賞を受賞して」

Heartfelt gratitude for the Best Young Investigator's Award for the 25th Annual Meeting of the Japanese Society of Nuclear Cardiology

田代（横山）らみ

Rami Tashiro – Yokoyama, M.D., Ph. D.

愛媛大学医学部 放射線医学

Department of Radiology, Ehime University Graduate School of Medicine

このたびは、第25回日本心臓核医学会総会・学術集会において、「第15回若手研究者奨励賞の最優秀賞」という名誉ある賞をいただきまして、まことにありがとうございます。大会長の一色高明先生をはじめ諸先生方にお礼申し上げます。

私は、平成22年に愛媛大学大学院医学系研究科放射線医学に入局しました。大学院では、心臓領域特に¹⁸F-fluorodeoxyglucose (FDG) positron emission tomography (PET) を用いた心臓サルコイドーシス(心サル)の画像診断についての研究を行ってきました。

サルコイドーシスは自然寛解する予後良好な疾患とされていますが、心病変を合併すると予後不良であり死亡例も存在するため、早期発見と治療は重要な課題です。心サルと診断された場合、治療適応を決定するために心病変の活動性の判定が重要となります。この判定には、⁶⁷Ga シンチグラフィが用いられてきましたが、診断感度が低いことが問題でした。一方、¹⁸F-FDG PET は炎症性疾患の診断にも応用されつつあり、2012年には心サルの炎症部位の診断に対して保険償還が認められました。

今回の受賞テーマ「F-18 FDG PET/CTにおける心

サルコイドーシスの心集積：ROC解析を用いた定量評価」は、FDG PET/CTを施行した心サル疑いの125例において、心筋のFDG集積を定量化して病変の活動性の評価を試みた研究です。心筋の生理的集積を抑制するプロトコルを用いたFDG PETの心筋SUVmaxは、心サルの診断能向上、ステロイド治療後の経過観察に有用であると考えられ、International Journal of Cardiology 2015;195:180-7に報告しました。現在は、症例数を増やし、長期予後の追跡調査を行っています。

このたび、表彰を受けられたのは、もとより私個人の力によるものではありません。大学院在学中に、日々ご指導いただいた望月輝一先生、宮川正男先生、その他、協力をいただいた上司や放射線医学教室の先生方に感謝申し上げます。また、支えてくれた家族にも心から感謝したいと思います。

私こと、本年、結婚して新しい生活をスタートいたしました。家庭と仕事を両立させながら、心臓核医学会の勉強を続けていきたいと希望しております。

今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



受賞後、会場にて。右から望月教授、私、西山先生、宮川先生。